

## 「あまおう」11月の管理

南筑後普及指導センター

福岡大城農業協同組合

10月下旬の生育状況（頂果）は、3型で開花～親指、5型で出蕾、普通ポットで4枚出葉となっており、遅い作型を中心に生育がやや遅れ気味になっています。

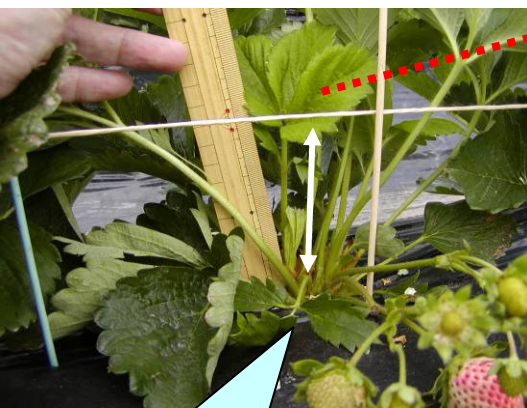
2番果房は、早期作型では昨年よりやや多い内葉数7枚前後で分化（一部9枚以上）、普通ポットでは内葉数5～6枚で分化と思われますが、株やほ場によるバラつきが大きいようです。

11月は厳寒期に向けた株作りの時期になりますので、早めの対策で理想の草勢になるよう栽培管理をお願いします。また、病害虫では、ハダニやスリップスの発生が一部で見られますので、病害の予防と併せて、防除の徹底をお願いします。

## 今後の管理

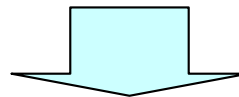
### 草勢管理について

11月は1番果房の着果負担がかかるため、“成り疲れ”させないよう草勢を維持（心葉展開時の葉柄長により判断）することが重要になってきます。



【心葉展開時の葉柄長等による草勢判断】

草勢	弱い	適切	強い
心葉の葉柄長	8cm以下	10～12cm	13cm以上
心葉の色	濃緑色	緑色	黄緑色
果房の方向	45度以下	45度	45度以上



電照時間	時間を長く	現状維持	時間を短く
------	-------	------	-------

心葉の  
①色②大きさ③葉柄長  
を見てください

電照は、11月10～15日より2時間で開始し、その後は心葉展開時の葉柄長を目安に時間を調節する。ただし、頂果が着色期の場合は11月10日から開始する。

※電照効果は1週間～10日後に表れるので着果負担など生育を予想して時間を調整する。

※11月下旬から12月上旬は3番果房の花芽分化期と考えられるため、生育旺盛になりすぎないように注意する（3番果房の花芽分化が遅れる可能性があるため、心葉展開時の葉柄長は最大

でも15cm程度にする)。

## 摘果

摘果は、2番果房の出蕾時期を確認して、作型・生育状況に応じて行う。

【「2番果房の出蕾時期」と「1番果房の摘果後の着果数」の目安】

2番果房の出蕾時期	1番果房の収穫前	1番果房の収穫前半～終盤	1番果房の収穫終了後
1～2番内葉数	4～5枚	6～8枚	9枚以上
1番果房の着果数	7～9果	10～12果	枝花のみ摘果

## かん水・液肥

「かん水」「液肥」は草勢が低下しないよう定期的に行う。

かん水の目安として、pFメーターを設置しているほ場では、pF値1.7～1.8で管理する。液肥は、窒素成分で月に2kg/10aを2～3回に分けて行う。

(液肥開始の目安 早期：収穫始め、普通期：親指大以降<11月下旬>)

ただし、1番果房と2番果房がはなれた場合には、1番果房収穫終了～2番果房着色期の間は追肥しない。

## 発根促進

イチゴの根は、収穫開始とともに弱っていき(白根が少なくなる)、“成り疲れ”の原因となる。発根促進剤(チャンス液、パフォームソイルなど)を活用し、できるだけ多くの発根を促す。

## 病害虫について

### ○ うどんこ病、灰色かび病

一度発病すると防除が困難であるため、イチゴ本ほ薬剤散布例(11月～3月)を参考に、定期的に農薬の予防散布を行う。

### ○ ヨトウムシ、オオタバコガ

防除の遅れたほ場で、被害がみられる。年内は定期的に防除を行うようにする。

### ○ スリップス

スリップス対策の有効な手段の一つとして、年内に飛び込んできたスリップスを防除し、ハウス内で越冬させないことが挙げられる。昨年度の発消長調査結果およびイチゴ本ほ薬剤散布例(11月～3月)を参考にし、定期的に薬剤防除を行う。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!**